

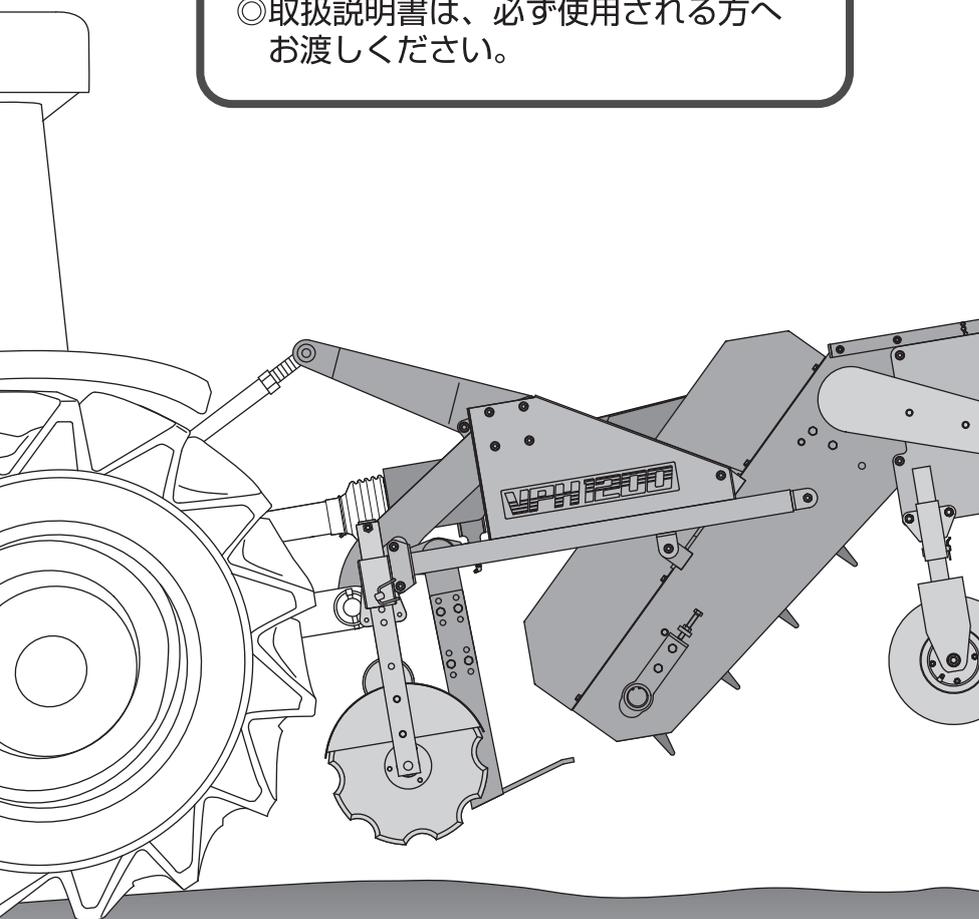
ニプロ

ラツカセイ 掘取機

VPH1200

◎ご使用前に必ず本取扱説明書をよくお読みになり、使用後は大切に保管してください。

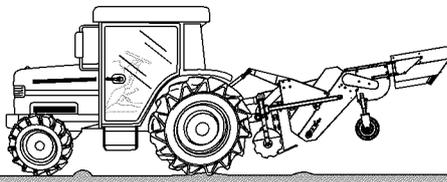
◎取扱説明書は、必ず使用される方へお渡しください。



Niplo

取扱説明書

- 1 安全について
- 2 概要と各部の名称
- 3 解梱と組立て
- 4 取付ける前に
- 5 取付けについて
- 6 調整について
- 7 作業前の点検
- 8 移動・ほ場への出入りと作業
- 9 取外しについて
- 10 保守・点検
- 11 格納について
- 12 保証とサービスについて
- 13 用語と解説



はじめに

このたびは、ニプロ ラッカセイ掘取機 VPH1200 をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。
この取扱説明書は、製品の取扱方法や操作手順、使用上の注意事項等を説明したものです。ご使用前に必ずよく読み十分理解されてから、正しくお取扱ください。

使用目的・用途について

- 本ラッカセイ掘取機（以下作業機と記す）は、トラクタに取付け、落花生の収穫作業に使用してください。使用目的以外の作業には、決して使用しないでください。使用目的以外の作業で故障した場合は、保証の対象になりません。
- 傷害の発生をさけるため、使用目的以外の使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。

国外への持ち出し（輸出）について

- 本作業機は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。本作業機を国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

安全対策について

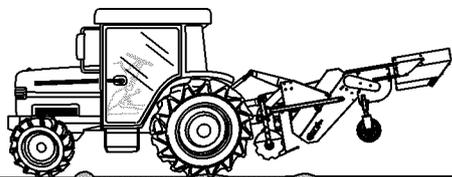
- 当社は、本作業機に関する危険をすべて予測することができません。また、取扱説明書や警告ラベルでその危険をすべて伝えることができません。したがって、作業機の運転、保守作業については、一般的に求められる安全対策の配慮が必要です。
- 日本語を母国語としない人が本作業機を取扱う場合は、お客様において取扱者に対して取扱指導および安全指導を実施してください。
さらに、取扱者の母国語で、警告ラベル記載文言に相当する文言を貼付・記載してください。
- この取扱説明書には安全に作業をしていただくために、安全上のポイント「1.3 安全に作業をするために」（4～12ページ）を記載しています。ご使用前に必ず読み、理解してください。

廃棄処理に関する注意事項

- 本作業機や消耗部品の廃棄については、各地方の条例にしたがってください。

この取扱説明書の取扱いおよびお問い合わせ

- この取扱説明書は、当社の著作物です。無断でこの取扱説明書のすべて、もしくは部分的に関わらず、当社の同意なしに複製・複製をすることを禁じます。
- 品質、性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。そのような場合には、この取扱説明書の内容およびイラスト等の一部が本作業機と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- お読みになった後は、必ず作業機の近くに保管し、必要になったときに読めるようにしてください。
- 作業機を他人に貸したり、譲り渡される場合は、この取扱説明書を作業機に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失、または損傷した場合は、速やかにお買い上げいただきました購入先へご注文ください。
- ご不明なことやお気づきのことがございましたら、お買い上げいただきました購入先へご相談ください。



目次

はじめに

..... 2

目次

..... 3

1 安全について

1.1	警告文の定義	4
1.2	その他の注意補足等	4
1.3	安全に作業をするために	4
1.3.1	一般的な注意事項	4
1.3.2	解梱の注意事項	6
1.3.3	取付け・取外しの注意事項	7
1.3.4	移動・作業時の注意事項	8
1.3.5	保守・点検・調整時の注意事項	10
1.3.6	格納時の注意事項	12
1.4	警告ラベルの種類と位置	13
1.5	注意銘板とその他のラベルの種類と位置	14

2 概要と各部の名称

2.1	概要	15
2.2	トラクタとの関係	15
2.3	主要諸元	16
2.4	各部の名称	17

3 解梱と組立て

3.1	梱包品の確認	18
3.2	解梱と組立て	18

4 取付ける前に

4.1	トラクタの準備	20
4.2	装着姿勢の確認	20

5 取付けについて

5.1	取付けに関する注意	21
5.2	トラクタへの取付け	21
5.3	ジョイントの取付け	22
5.3.1	切断方法	24

6 調整について

6.1	水平調整	25
6.1.1	自動水平装置付トラクタ	25
6.1.2	自動水平装置のないトラクタ	25
6.2	チェックチェーンの調整	25

6.3	最上げ位置の調節	26
6.4	前後角度調整	26

7 作業前の点検

..... 27

8 移動・ほ場への出入りと作業

8.1	移動のしかた	28
8.2	作業のしかた	29
8.2.1	掘取り方法	30
8.3	上手な作業のしかた	30
8.3.1	作業速度	30
8.3.2	PTO回転数	30
8.3.3	逆転PTOについて	30
8.3.4	掘取り深さの調整	31
8.3.5	旋回のしかた	31
8.3.6	後部シュートの調整	31
8.3.7	ブレード枠の調整	31
8.3.8	莖葉規制パイプの調整	31

9 取外しについて

..... 32

10 保守・点検

10.1	ボルト・ナットのゆるみ点検	35
10.2	ジョイントの給油	35
10.3	グリースの補充	35
10.3.1	連結ハウジング	35
10.3.2	コルター	36
10.3.3	従動軸受	36
10.3.4	反転ゴムディスク駆動チェーン	36
10.4	Vベルトの調整	37
10.5	ゴムベルトコンベアの点検	38
10.6	消耗部品の交換	38
10.7	点検整備チェックリスト	39
10.8	異常と処置一覧表	40

11 格納について

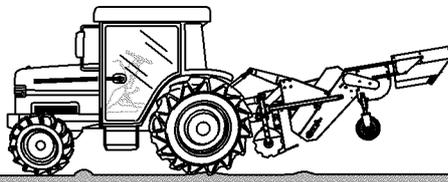
..... 41

12 保証とサービスについて

12.1	保証について	42
12.2	アフターサービスについて	42
12.3	補修部品と供給年限について	42

13 用語と解説

..... 43



1 安全について

1.1 警告文の定義

この取扱説明書で使用している表示を以下に示します。
 危害、財産への損害を未然に防止するための安全に関する重大な内容を記載しています。
 表示の内容をよく理解してから本文を読み、記載事項を守ってください。

◆表示の説明

 危険	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が高い状態を示します。
 警告	その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことがあり得る状態を示します。
 注意	その警告文に従わなかった場合、軽傷または中程度の傷害を負うかもしれない状態を示します。

1.2 その他の注意補足等

◆注意補足の説明

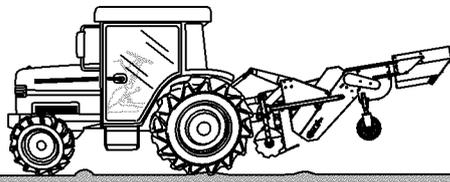
重要	その警告文に従わなかった場合、作業機やトラクタの破損、故障のおそれがあるものを示します。
環境	環境保護のために知っておいていただきたいことや、守っていただきたいことを記載しています。
注記	知っておくと役に立つ情報や、便利なこと等を示します。

1.3 安全に作業をするために

ここに記載している警告文を守らないと、死亡・傷害事故や、作業機やトラクタの破損をまねくおそれがあります。よく読んで、作業を行う場合は十分注意してください。

1.3.1 一般的な注意事項

 警告	
こんなときは運転しない	
<ul style="list-style-type: none"> ● 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により作業に集中できないとき ● 酒を飲んだとき ● 妊娠しているとき ● 年少者や運転の未熟な人 	
【守らないと】傷害事故をまねくおそれがあります。	



⚠ 警告

作業に適した服装をする

ヘルメット・すべり止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない服装をしてください。
はちまき・首巻き・腰タオルは禁止です。

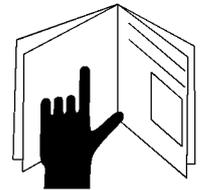
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



本作業機を他人に貸すときは取扱方法を説明する

取扱方法をよく説明し、必ず使用前に取扱説明書を読むように指導してください。

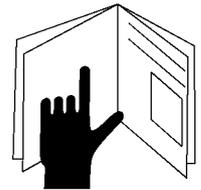
【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの破損につながるおそれがあります。



本作業機を他人に譲り渡すときは取扱説明書を付ける

本作業機と一緒に取扱説明書を渡し、必ず読むように指導してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの破損につながるおそれがあります。



作業機の改造禁止

改造をしないでください。保証の対象になりません。

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

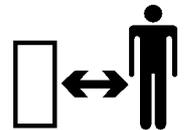
【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの破損につながるおそれがあります。



トラクタと作業機の周りに人（特に子供）を近づけない

トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



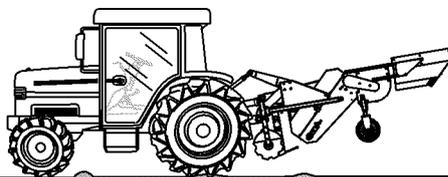
重量バランスの調整をする

トラクタに重い作業機やアタッチメントを装着するときは、前輪分担荷重が全重の20%以上になるように、適正な質量のバランスウェイトを装着してください。

（適正な前輪分担荷重は、トラクタや作業機により異なります。トラクタの取扱説明書や販売店の指示にしたがって、お客様所有のトラクタに適した前輪分担荷重となるようにしてください）

【守らないと】傷害事故や作業機やトラクタの破損をまねくおそれがあります。





⚠ 注意

公道の走行は作業機取付け禁止

トラクタで公道を走行するときは、必ず作業機を取外してください。

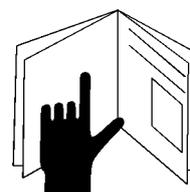
【守らないと】道路運送車両法違反となるだけでなく、事故を引き起こすおそれがあります。



トラクタの取扱説明書をよく読む

必ずトラクタの取扱説明書をよく読み、理解してください。

【守らないと】傷事事故、または作業機やトラクタの破損につながるおそれがあります。



1.3.2 解梱の注意事項

⚠ 警告

梱包用スタンドの取外しや番線を切断するときは、十分注意する

【守らないと】フレームの重みで作業機が転倒し、死亡事故や傷害事故、作業機の損傷につながるおそれがあります。



⚠ 注意

梱包を解体するときは、厚手の手袋を着用し、手を保護する

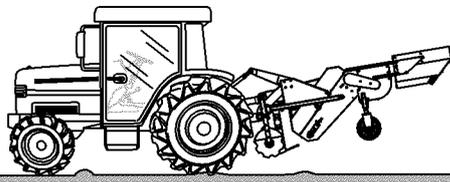
【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。



パイプのフック、鉄棒の突起部などには十分注意する

【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。





1.3.3 取付け・取外しの注意事項

⚠ 危険

カバー類を元どおりに取付ける

取外したトラクタのPTO軸カバーを元どおりに取付けてください。

【守らないと】巻き込まれて死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



⚠ 警告

作業機の下にもぐったり、足を入れない

作業機の下にもぐったり、足を入れないでください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



作業機を取付け・取外しは、平らな場所で行う

平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。

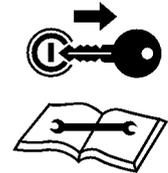
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

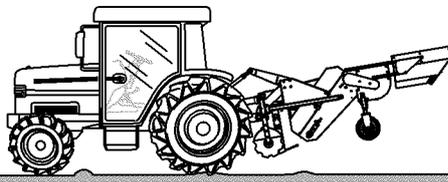


作業機を取付け・取外しは、エンジンを停止して行う

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



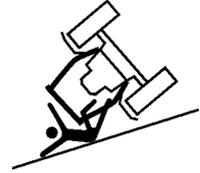


1.3.4 移動・作業時の注意事項

⚠ 警告

急発進、急加速、高速走行、急制動、急旋回はしない

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



運転者以外の人やものをトラクタや作業機に乗せて運ばない

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



作業機の下にもぐったり、足を入れない

作業機の下にもぐったり、足を入れないでください。

【守らないと】何かの原因で作業機が下がったときに、傷害事故を負うおそれがあります。



周囲の人やものに注意して走行する

トラクタに作業機が付いていると、後ろが長く、横幅が広がります。周囲の人やものに注意して走行してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



アユミ板は、強度・長さ・幅の十分あるものを使用する

積み、積降しをするときは、平らで交通の邪魔にならない場所でトラックのエンジンを止めます。動かないようにサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。使用するアユミ板は強度・長さ・幅が十分あり、すべり止めの付いているものを選んでください。長さの目安は荷台高さの4倍です。

【守らないと】事故・ケガ・作業機やトラクタの故障をまねくおそれがあります。



あぜ越えや段差を乗り越えるときは、アユミ板を使用する

あぜ越えや段差を乗り越えるときは、アユミ板を使用して、地面に接しない程度に作業機を下げ、重心を低くしてください。使用するアユミ板は強度・長さ・幅が十分あり、すべり止めのあるものを選んでください。長さの目安はあぜや段差の4倍です。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

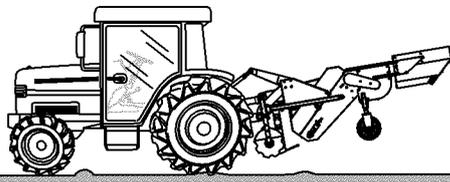


重量バランスの調整をする

急な登り坂で前輪が浮き上がると、ハンドル操作ができなくなります。前輪分担荷重が全重の20%以上になるように、適正な質量のバランスウェイトを装着してください。(適正な前輪分担荷重は、トラクタや作業機により異なります。トラクタの取扱説明書や販売店の指示にしたがって、お客様所有のトラクタに適した前輪分担荷重となるようにしてください)

【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機やトラクタの破損につながるおそれがあります。





⚠ 警告

両側に溝や傾斜のある農道を通るときは、特に路肩に注意する

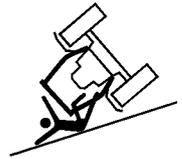
軟弱な路肩、草の茂ったところは通らないでください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



ほ場への出入りは、必ずあぜと直角に行う

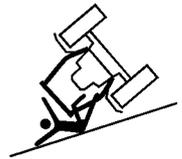
【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



傾斜地では作業走行しない

作業は平坦な場所で行ってください。傾斜地での作業は、転倒のおそれがあり大変危険です。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



作業機は、絶対に素手で触れたり、足で踏めない

【守らないと】死亡事故や傷害事故、または作業機の損傷につながるおそれがあります。

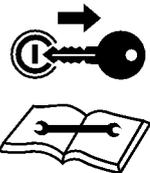


作業機やトラクタに巻き付いた草などを取るときはエンジンを停止する

・トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

・回転部が止まっていることを確認してから、巻き付きを外してください。

【守らないと】作業機やトラクタに巻き込まれて、死亡事故や重傷を負うおそれがあります。

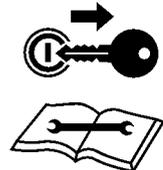


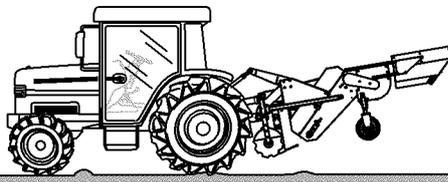
作業機の調整はエンジンを停止して行う

・トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

・回転部が止まっていることを確認してから、調整を行ってください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。





⚠ 注意

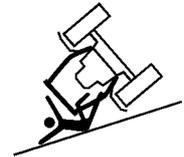
異常が発生したら、すぐにエンジンを停止し、点検を行う

- ・トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
 - ・回転部が止まっていることを確認してから、点検を行ってください。
- 【守らないと】他の部分へ損傷がひろがり、事故につながるおそれがあります。



あぜ際での作業は、低速で余裕をもって運転する

- あぜに作業機をぶつけないように、低速で余裕をもって運転してください。
- 【守らないと】傷害事故や作業機の損傷につながるおそれがあります。



草やゴミを路上に落とさない

- 作業中や作業後に、草やゴミを路上に落とさないでください。
- 【守らないと】道路交通法違反になるだけでなく、事故を引き起こすおそれがあります。

1.3.5 保守・点検・調整時の注意事項

⚠ 警告

作業は平らで安定した場所で行う

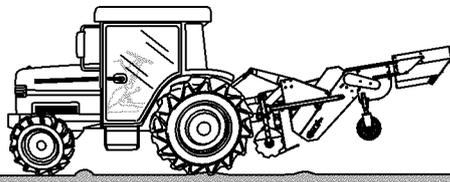
- ・交通の邪魔にならない場所で行ってください。
 - ・作業機が動いたり、倒れたりしない平らで固い場所で行ってください。
 - ・トラクタの車輪には車止めをしてください。
- 【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



作業はエンジンを停止して行う

- ・トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
 - ・回転部が止まっていることを確認してから、調整を行ってください。
- 【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。





⚠ 警告

トラクタの油圧ストップバルブを完全に閉めてロックする

作業機が下がるのを防止するため、トラクタの油圧ストップバルブを完全に閉めてロックし、さらに作業機の下へ台を入れてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



異常を見つけたら、速やかに修理する

変形、損傷等の異常を見つけたら、速やかに修理をしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。



取外したカバー類は元どおりに取付ける

保守・点検・調整で取外したカバー類は、必ず取付けてください。

【守らないと】機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



⚠ 注意

目的に合った工具を正しく使用する

点検・整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合ったものを正しく使用してください。

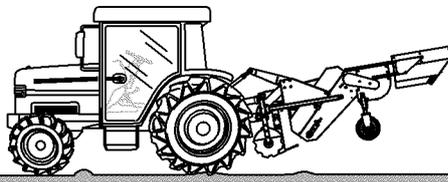
【守らないと】整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。



作業時は、厚手の手袋を着用し、手を保護する

【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。





1.3.6 格納時の注意事項

⚠ 注意

平らで固い場所に格納する

雨や風があたらず、平らで固い場所を選んでください。

【守らないと】作業機の転倒等により、傷害事故や作業機の破損につながります。

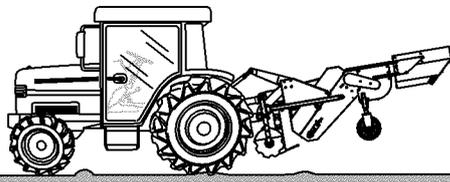


作業機単体の転倒防止をする

必ずゲージ輪を所定の位置で固定し、転倒を防止してください。

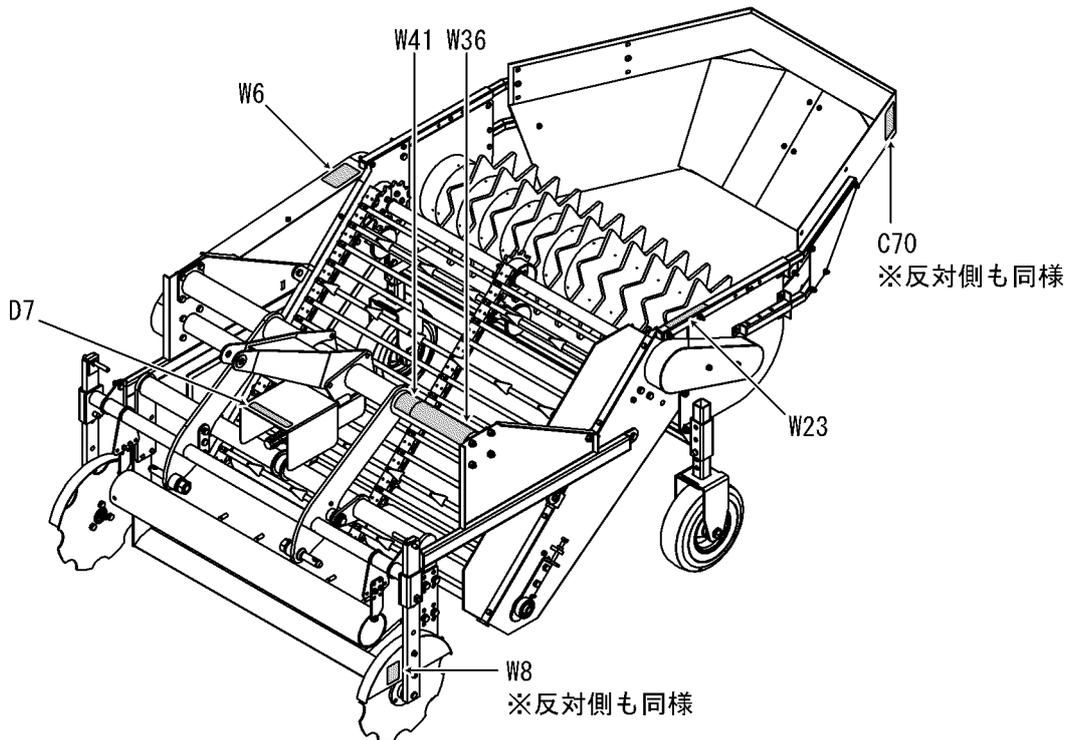
【守らないと】作業機の転倒等により、傷害事故や作業機の破損につながります。





1.4 警告ラベルの種類と位置

- 警告ラベルはイラストの位置に貼ってあります。よくお読みになり安全に作業をしてください。
- 警告ラベルは、汚れや土を落とし、常に見えるようにしてください。
- 警告ラベルを紛失または破損された場合には、お買い上げいただいた購入先へ、型式および部品番号で注文してください。



D7 8750-344000



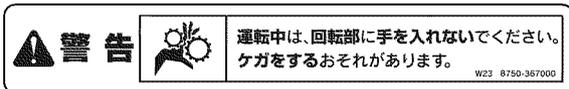
W6 8750-323000



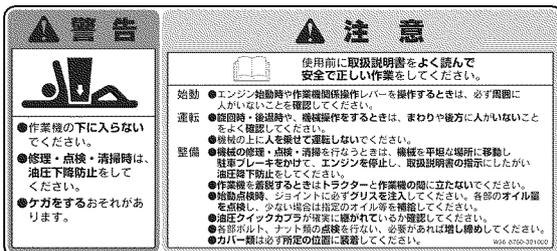
W8 8750-325000



W23 8750-367000



W36 8750-391000

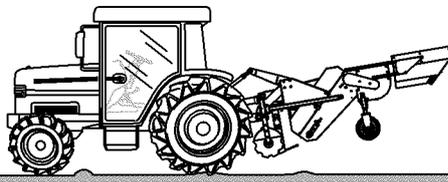


W41 8750-399000



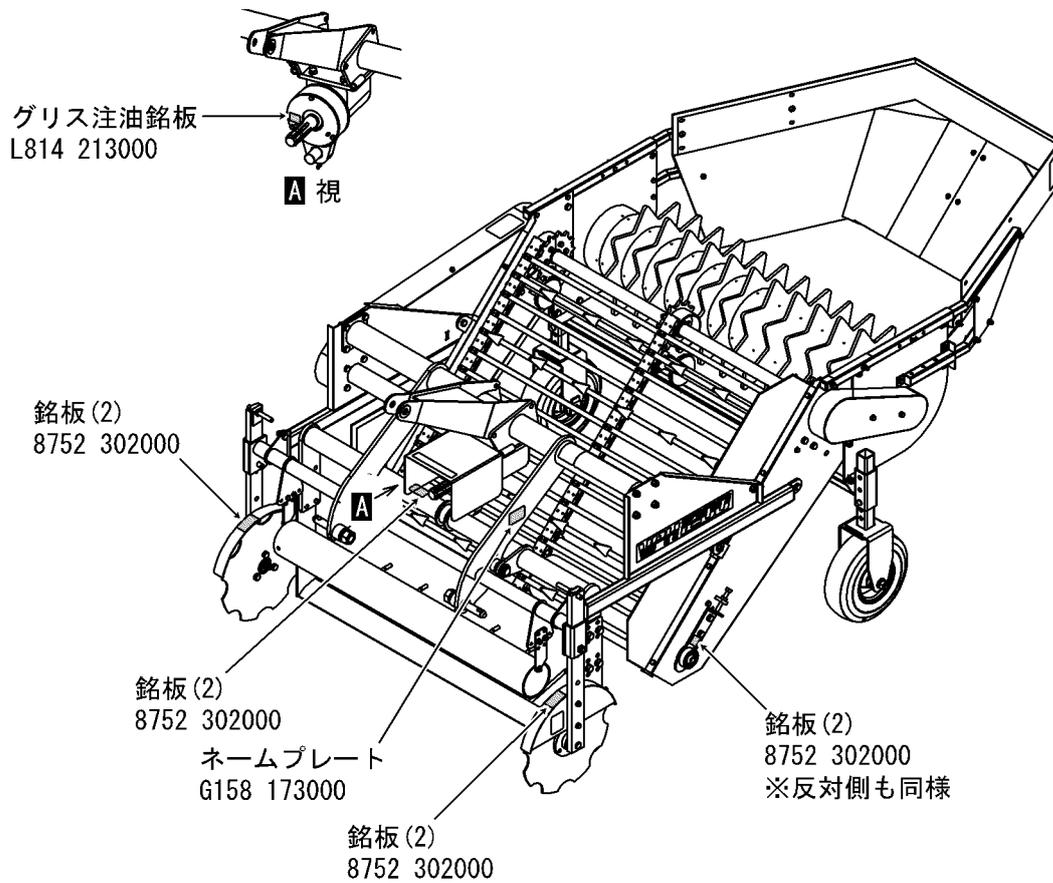
C70 8750-468000

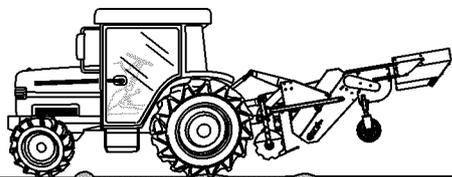




1.5 注意銘板とその他のラベルの種類と位置

- 注意銘板とその他のラベルはイラストの位置に貼ってあります。
- 注意銘板とその他のラベルは、汚れや土を落とし、常に見えるようにしてください。
- 注意銘板とその他のラベルを紛失または破損された場合には、お買い上げいただいた購入先へ、型式および部品番号で注文してください。



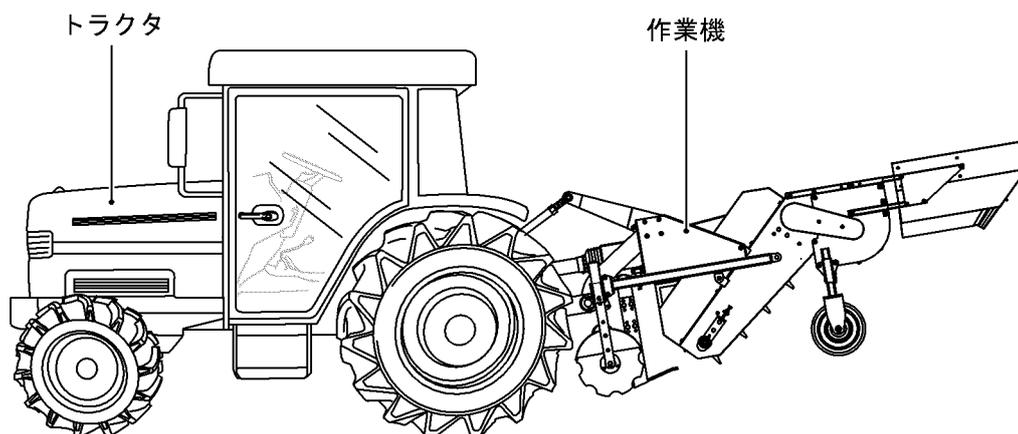


2 概要と各部の名称

2.1 概要

- 本作業機は、畑での落花生の掘取作業に使用してください。
- 本作業機は、「標準3点リンク」で設計しています。他の規格では取付けができません。
- 本作業機は、決められた適応馬力で設計しています。適応トラクタ馬力の範囲内で使用してください。

2.2 トラクタとの関係

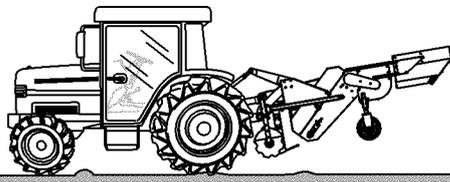




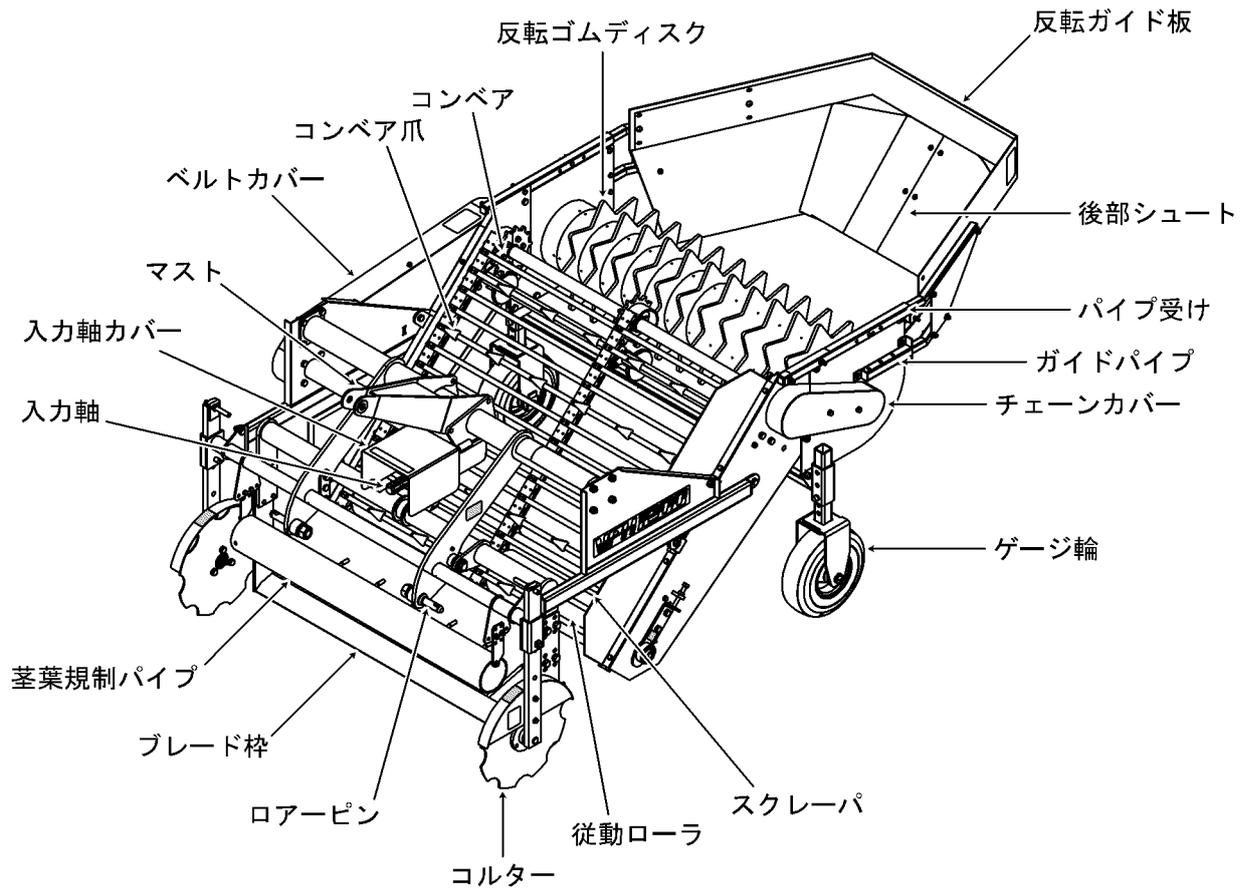
2.3 主要諸元

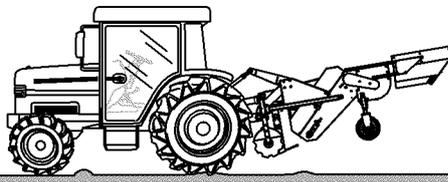
項目		仕様
機体寸法	全長(mm)	2380 (最大 2480)
	全幅(mm)	1450
	全高(mm)	1105
機体質量(kg)		300
作業幅(cm)		120
掘取深さ(cm)		畝天面から 10 cm (最大 15 cm)
作業速度(km/h)		1.2 ~ 1.7
作業能率(分/10a)		39 ~ 56 (畝間 1.2 m 効率 70 %として)
適応トラクタ馬力[kW(PS)]		18.4 (25) ~ 25.0 (34)
装着方法		標準 3 点リンク直装
使用ジョイント		DM 型
変速		なし
変速方法		PTO 1 速にてエンジン回転数による
トラクタエンジン回転数(rpm)		1400 ~ 2000
駆動方法		ベベルギヤ・Vベルト・チェーン
使用Vベルト		SB-76
適応トレッド(mm)		1050 ~ 1200
PTO 回転数(rpm)		320 ~ 420
作付け体系		慣行千鳥蒔き・1 条蒔き
掘取深さ調節		トラクタトップリンクの伸縮・ゲージ輪の高さ調節

※ 本主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。



2.4 各部の名称





3 解梱と組立て

3.1 梱包品の確認

1組ごとに厳重な検査をしたうえで出荷していますが、輸送中の破損、物品の欠品、およびその他の異常の可能性も皆無ではありません。下表の事項も含めて確認してください。

もし、問題があった場合は、お買い上げの購入先へ連絡してください。

確認箇所	確認方法
ご注文の品物かどうか	「1.5 注意銘板とその他のラベルの種類と位置」(14ページ)を参照し、ネームプレートで確認
ネームプレート、警告ラベルが剥がれていないか	「1.4 警告ラベルの種類と位置」(13ページ)・「1.5 注意銘板とその他のラベルの種類と位置」(14ページ)を参照し、目視によるチェック
破損はないか	目視による外観チェック
取扱説明書、保証書他同梱品が入っているか	下表によるチェック

品名	数量
作業機本体	1
取扱説明書(本書)	1
保証書	1
反転ガイド板	1
平頭付ピン(8×40)	4
Rピン(B-8)	4

3.2 解梱と組立て

⚠ 警告

- 平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。
- 重量物が含まれるため、必ず2人以上で作業を行ってください。
- 吊り上げた状態で、作業機の下にもぐったり、足を入れないでください。
- 吊り具(ベルトなど)は、のイラストの箇所(フレーム)に掛けてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故、作業機の損傷につながるおそれがあります。

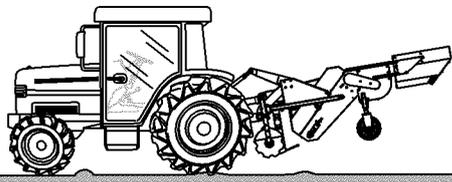
梱包用スタンドの取外しや番線を切断するときは、十分注意してください。

【守らないと】フレームの重みで作業機が転倒し、死亡事故や傷害事故、作業機の損傷につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 梱包を解体するときは、周りの人(特に子供)やものに注意してください。
- 梱包を解体するときは、厚手の手袋を着用し、手を保護してください。
- パイプのフック、鉄棒の突起部などには十分注意してください。

【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。



1

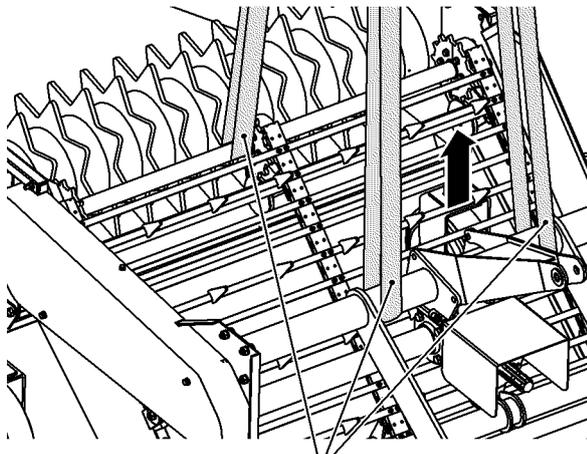
梱包用ビニールをはがし、番線・バンドを切断し、反転ガイド板を取外します。

2

作業機をクレーンなどでゆっくりと吊り上げます。

注 記

- ・ バランスを確認しながら吊り上げてください。不安定な場合は吊り具の長さを調整してください。



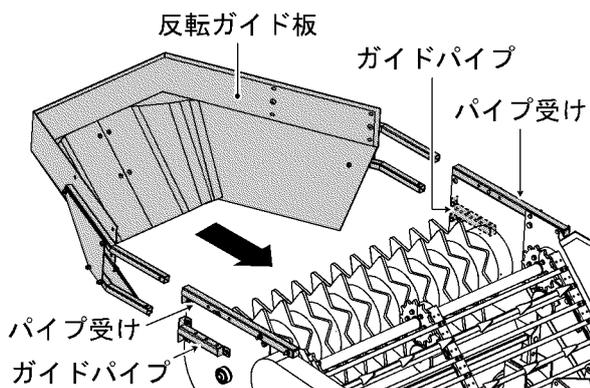
吊り具

3

作業機を地面に下ろします。

4

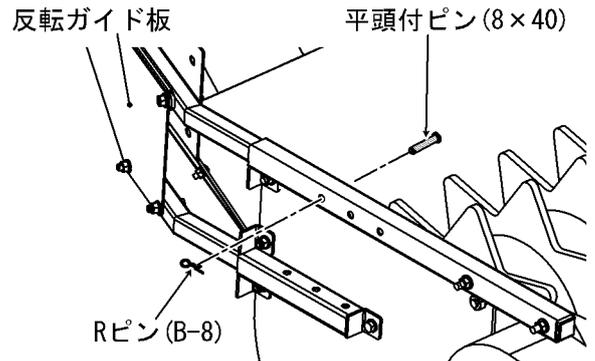
反転ガイド板をパイプ受け・ガイドパイプに差します。



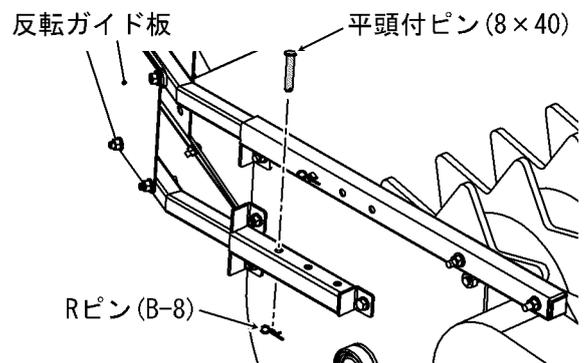
5

平頭付ピン (8×40) ・ Rピン (B-8) で、反転ガイド板をパイプ受け・ガイドパイプに固定します。

■パイプ受け



■ガイドパイプ



6

同様に反対側も平頭付ピン (8×40) ・ Rピン (B-8) で、反転ガイド板をパイプ受け・ガイドパイプに固定します。



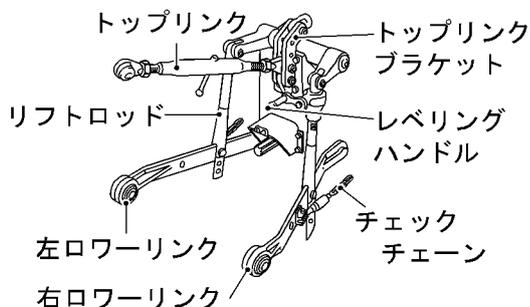
4 取付ける前に

4.1 トラクタの準備

⚠ 注意

トラクタの取扱説明書をよく読んでください。

【守らないと】取付けができなかったり、傷害事故、または作業機やトラクタの破損につながるおそれがあります。

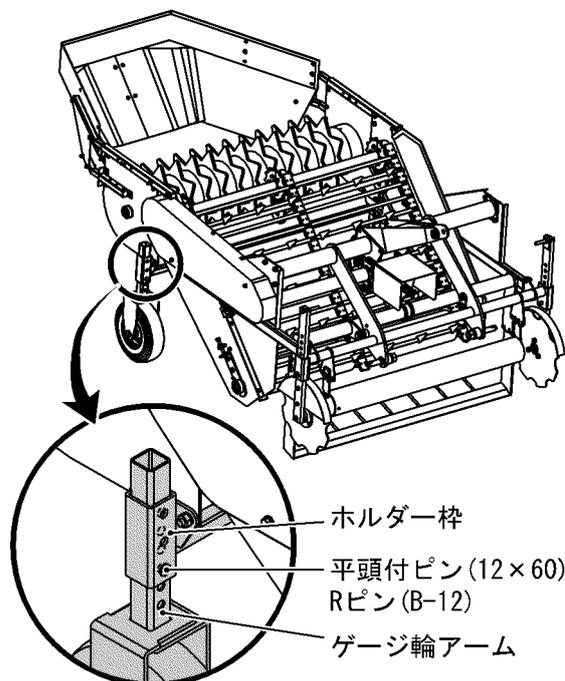


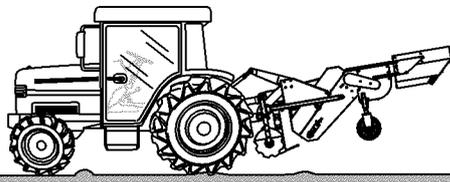
- (a) 作業機の3点リンク規格は、「標準3点リンク規格」を採用しています。トラクタの3点リンクも標準3点リンクでないと装着できません。
- (b) 作業機の上がり量、下がり量が不足する場合は、リフトロッドの取付穴位置を上下の穴に移して、調整してください。
 - ・上の穴は上がり量が増えます。
 - ・下の穴は下がり量が増えます。

4.2 装着姿勢の確認

作業機のホルダー枠の下穴と、ゲージ輪アームの下から3番目の穴を合わせて、平頭付ピンを挿して固定した状態がトラクタへの装着姿勢です。

装着姿勢でない場合は、お買い上げの購入先へ連絡してください。





5 取付けについて

5.1 取付けに関する注意

⚠ 危険

取外したトラクタのPTO軸カバーを元どおりに取付けてください。

【守らないと】巻き込まれて死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 作業機の下にもぐったり、足を入れないでください。
- 平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。
- 作業機を取付けるときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。
また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

トラクタに重い作業機やアタッチメントを装着するときは、前輪分担荷重が全重の20%以上になるように、適正な質量のバランスウェイトを装着してください。

(適正な前輪分担荷重は、トラクタや作業機により異なります。トラクタの取扱説明書や販売店の指示にしたがって、お客様所有のトラクタに適した前輪分担荷重となるようにしてください。)

【守らないと】傷害事故や作業機やトラクタの破損をまねくおそれがあります。

⚠ 注意

トラクタの取扱説明書をよく読んでください。

【守らないと】取付けができなかったり、傷害事故、または作業機やトラクタの破損につながるおそれがあります。

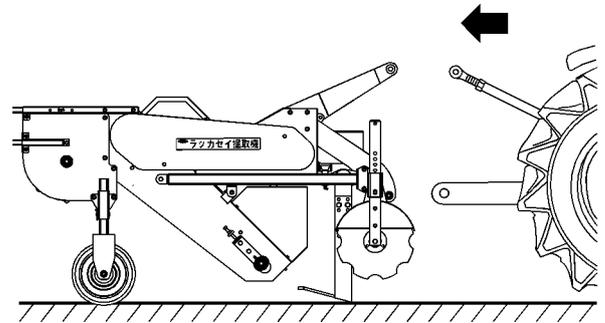
5.2 トラクタへの取付け

1

作業機を装着姿勢にします。
(「4.2 装着姿勢の確認」(20ページ)を参照してください。)

2

トラクタを作業機の入力軸に合わせ、まっすぐ後進させます。
トラクタのローリンクが作業機のローアークの位置まで近づいたら、トラクタを停止させます。



3

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

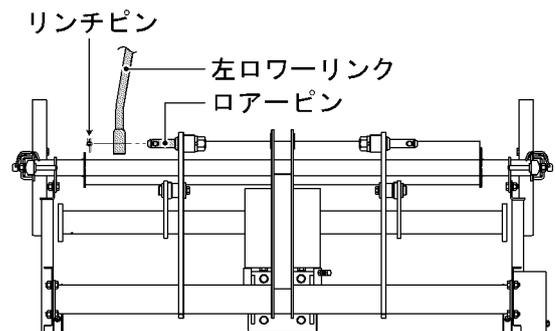
4

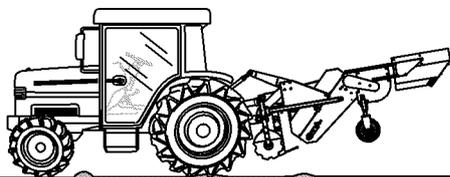
作業機の左ローアークに、トラクタの左ローリンクを取付けて、リンチピンで抜け止めをします。

⚠ 注意

必ずリンチピンで抜け止めをしてください。

【守らないと】傷害事故、または作業機やトラクタの破損につながるおそれがあります。





5

同様に作業機の右ローアープインに、トラクタの右ローリンクを取付けて、リンチピンで抜け止めをします。

注 記

- ・ 高さが合わないときは、レベリングハンドルを回し、リフトロッドの長さを調整して取付けてください。
- ・ 作業機を油圧で水平制御しているトラクタは、スイッチやダイヤルでシリンダの長さを調整してください。

6

トラクタのトップリンクを、作業機のマストにトップリンクピンで取付け、付属のピンで抜け止めをします。

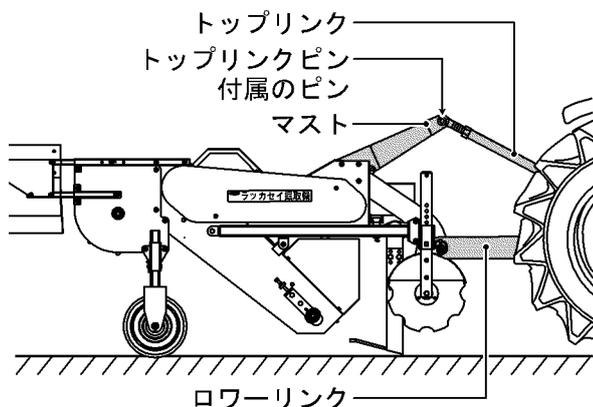
注意

必ず付属のピンで抜け止めをしてください。

【守らないと】 傷害事故、または作業機やトラクタの破損につながるおそれがあります。

注 記

- ・ 位置が合わないときは、トップリンクの長さを調節してください。



5.3 ジョイントの取付け

警告

- トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
- ジョイントを取付けた後は、必ず元の位置に入力軸カバーを取付けてください。

【守らないと】 死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

重要

- ・ トラクタの型式に適応した長さのジョイントを使用してください。

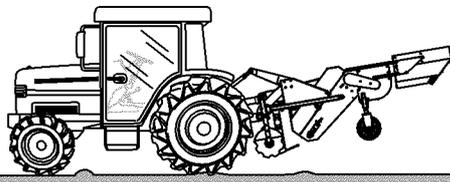
長すぎるとトラクタの PTO 軸か作業機の入力軸を突きます。短いと、ジョイントのかみ合いが少なくなり破損する原因になります。

- ・ 出荷時、入力軸には入力軸キャップが取付けてあります。ジョイントを取付ける前に、必ず取外してください。

作業機・ジョイントを破損する原因になります。

ジョイントの長さは、装着するトラクタの型式により異なります。ご注文時にトラクタの型式をお知らせいただければ、その型式に適応した長さのジョイントが付属されます。型式が不明な場合は、標準の長さのジョイントが付属されます。





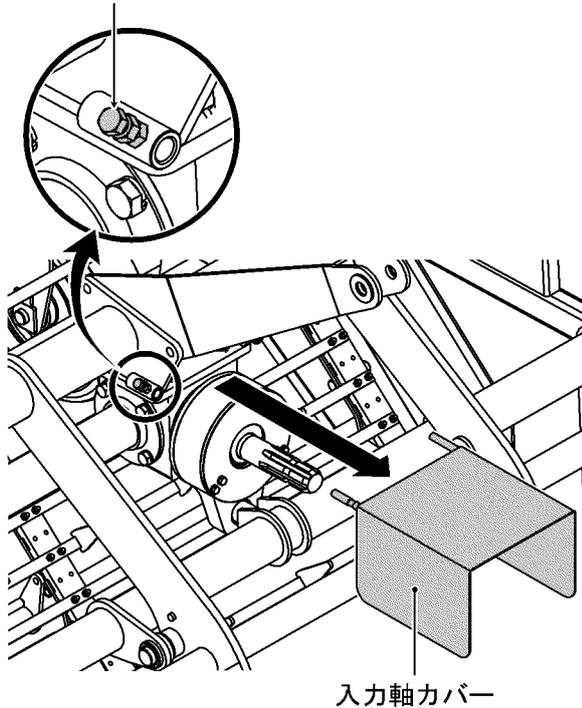
1

作業機をトラクタに取付けます。
「5.2 トラクタへの取付け」(21~22 ページ)を参照してください。

2

作業機の小形ボルト (M8×25 7T)・小形ナット (M8) をゆるめて、入力軸カバーを取外します。

小形ボルト (M8×25 7T)
小形ナット (M8)

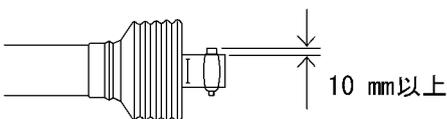


入力軸カバー

3

ロックピンを押しながらトラクタ側 (PTO 軸) にはめ込み、取付けます。

- ・ 取付け後、ロックピンの頭が 10 mm 以上出ていることを確認してください。
- ・ ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。



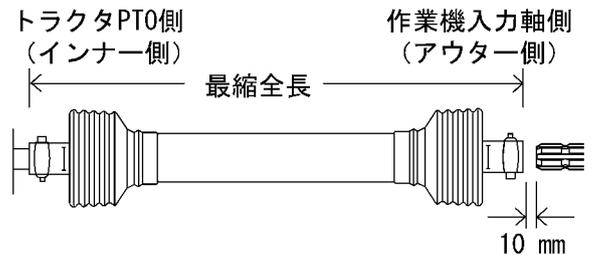
4

ジョイントをいっぱい縮め、ジョイントの先端と作業機入力軸 (アウター側) との間に 10 mm 以上隙間があれば、そのままロックピンを押しながらはめ込み、取付けます。

- ・ 取付け後、ロックピンの頭が 10 mm 以上出ていることを確認してください。
- ・ ロックピンが軸溝に正確にはまっていることを確認してください。

ジョイントの先端と入力軸との間に隙間がない場合は、長い分を切断します。

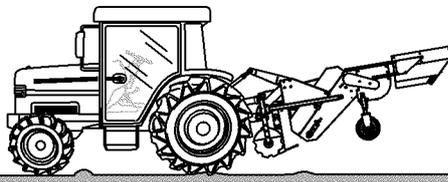
「5.3.1 切断方法」(24 ページ)を参照してください。



注 記

- ・ ジョイントの長さは、次表の範囲内で使用してください。
- ・ 最少ラップ (インナー、アウターの重なり) は 80 mm 確保しています。

種類	ジョイント 型式	最縮全長 (mm)	使える長さ (mm)
普通 ジョイント	DM-1	610	610~814
	DM-660	660	660~914
	DM-2	710	710~1014
	DM-3	810	810~1214

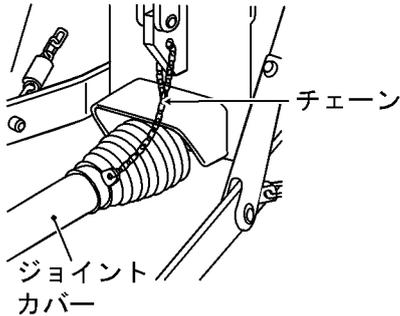


5

ジョイントカバーのチェーンを、トラクタの3点リンクが上下しても動かない場所につなぎます。

注 記

- ・ 3点リンクを上下しても引っ張られないようにたるみを持たせてください。



6

手順 **5** で取外した入力軸カバーを元の位置に取付けます。

5.3.1 切断方法

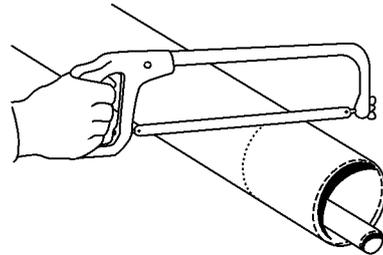
⚠ 注意

高速カッターを使用するときは、十分注意して作業を行ってください。

【守らないと】高速カッターは回転が速く、ケガをす
るおそれがあります。

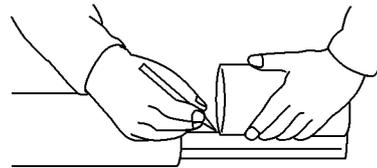
1

ジョイントカバーを、長い分だけ切り取ります。(インナー側・アウター側両方を切り取ります。)



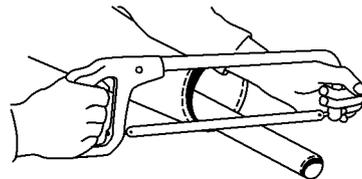
2

切り取ったジョイントカバーと同じ長さを、シャフトの先端から測ります。(インナー側・アウター側両方を、それぞれ切り取った長さで測ります。)



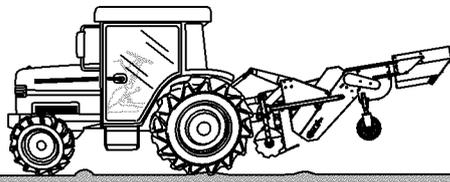
3

シャフトを高速カッターや金ノコで切断します。(インナー側・アウター側両方を、それぞれ測った長さで切断します。)



4

切り口をヤスリでなめらかに仕上げ、グリースを塗り、インナー側・アウター側を組合わせます。



6 調整について

⚠ 警告

- トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。
- 作業機の下にもぐったり、足を入れないでください。
- トラクタとの調整は、平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。
- 作業機を調整するときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

厚手の手袋を着用し、手を保護してください。

【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。

6.1 水平調整

注 記

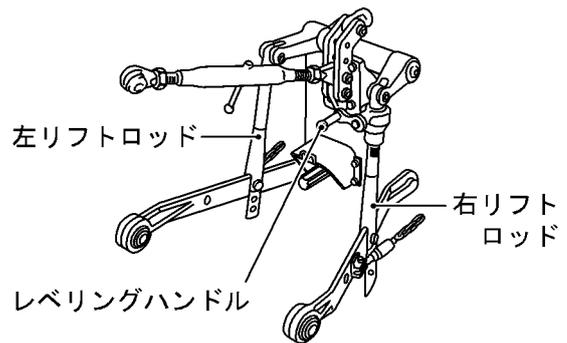
- ・ トラクタの取扱説明書をよく読んでください。

6.1.1 自動水平装置付トラクタ

作業機の左右がトラクタに対して水平になるように調整します。

6.1.2 自動水平装置のないトラクタ

トラクタのレベリングハンドルを回して、右リフトロッドの長さを調整します。

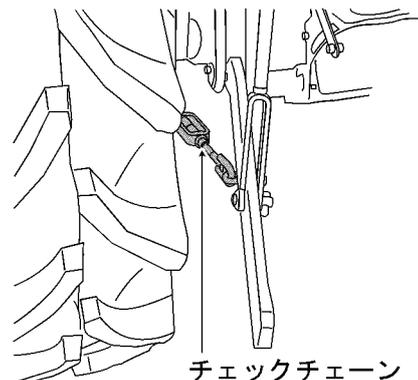


6.2 チェックチェーンの調整

トラクタの中心（PTO 軸）と作業機の中心（入力軸）を一直線に合わせ、左右均等に 10 ~ 20 mm 振れるように、チェックチェーンを張ります。

注 記

- ・ 石の多いほ場では、ややゆるく張ってください。





6.3 最上げ位置の調節

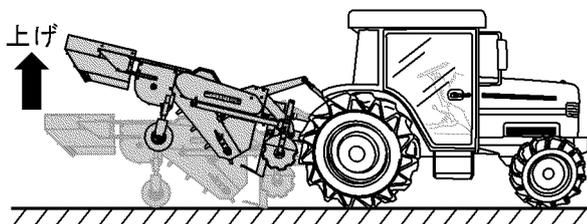
重要

- ・ トラクタによっては、スイッチで最上げまで自動上昇する機種があります。作業機が勢いよく上がるため、トラクタと作業機との間隔を 100 mm 以上開けるように上げ規制をしてください。
- ・ キャビン付きトラクタの場合は、トラクタ背面のガラスを突き上げないように注意してください。
- ・ 最上げ状態で、トラクタの水平装置を手動で操作する場合は、トラクタに干渉しないように注意してください。

トラクタや作業機の損傷につながります。

1

トラクタの PTO を回転させながら作業機昇降レバー（油圧レバー）を上げてゆっくり作業機を上げ、干渉や振動・異音の出ない位置で作業機を止めます。



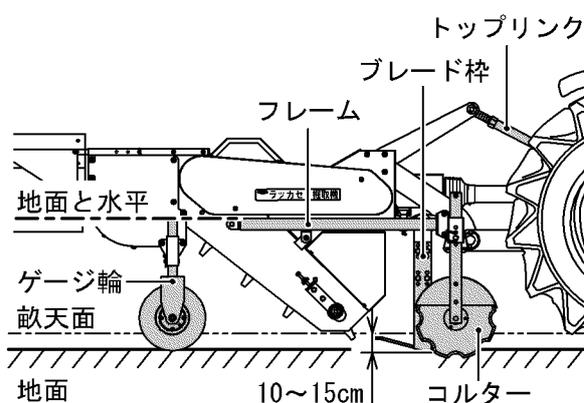
2

作業機昇降レバー（油圧レバー）を、上げ高さ規制ストッパで固定します。

6.4 前後角度調整

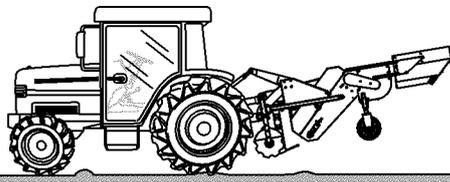
トラクタで畝をまたぎ、作業機のブレード枠が畝の天面から 10 ~ 15 cm の位置にある状態で、作業機のフレームが地面と水平になるように、ゲージ輪・トップリンクを調整してください。

コルターは地面に 5 cm 程度土に入る位置で固定します。



注記

- ・ 極端な前傾・後傾は、作業機の振動や異音発生の原因になります。また、作業性能も損なうおそれがあります。
- ・ トップリンクが作業中にゆるむことがないように必ずロックしてください。



7 作業前の点検

⚠ 警告

- 交通の邪魔にならない場所で行ってください。
- 作業機が動いたり、倒れたりしない平らで固い場所で行ってください。
- トラクタの車輪には車止めをしてください。
- トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
- 作業機が下がるのを防止するため、トラクタの油圧ストップバルブを完全に閉めてロックし、さらに作業機の下へ台を入れてください。
- 変形、損傷等の異常を見つけたら、速やかに修理をしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

点検・整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合ったものを正しく使用してください。

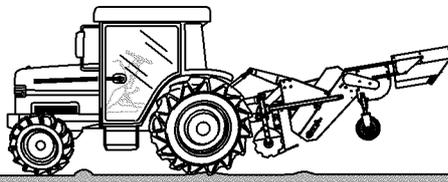
【守らないと】整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。

厚手の手袋を着用し、手を保護してください。

【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。

作業機の性能を引き出し、長くご使用いただくために、必ず作業前の始業点検を行ってください。

- (a) 各部の損傷、ボルト・ナットのゆるみ点検
「10.1 ボルト・ナットのゆるみ点検」(35 ページ)を参照してください。
- (b) ジョイントのグリースニップルへグリース注入
「10.2 ジョイントの給油」(35 ページ)を参照してください。
- (c) 各部グリースニップルへグリース注入
「10.3 グリースの補充」(35 ~ 36 ページ)を参照してください。
- (d) 反転ゴムディスク駆動チェーンへグリース塗布
「10.3 グリースの補充」(36 ページ)を参照してください。
- (e) V ベルトの張り具合の点検
「10.4 V ベルトの調整」(37 ページ)を参照してください。
- (f) ゴムベルトコンベアの点検
「10.5 ゴムベルトコンベアの点検」(38 ページ)を参照してください。
- (g) ブレード枠など消耗部品の点検、交換
「10.6 消耗部品の交換」(38 ページ)を参照してください。
- (h) 地面から上げて回転させ、異音・異常のチェック
- (i) 止め輪、R ピン、割ピンの点検



8 移動・ほ場への出入りと作業

⚠ 警告

- 急発進、急加速、高速走行、急制動、急旋回はしないでください。
- 運転者以外の人やものをトラクタや作業機に乗せて運ばないでください。
- トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。
- トラクタに作業機が付いていると、後ろが長く、横幅が広がります。周囲の人やものに注意して走行してください。
- あぜ越えや段差を乗り越えるときは、アユミ板を使用して、地面に接しない程度に作業機を下げ、重心を低くしてください。使用するアユミ板は強度・長さ・幅が十分あり、すべり止めのあるものを選んでください。長さの目安はあぜや段差の4倍です。
- 急な登り坂で前輪が浮き上がると、ハンドル操作ができなくなります。前輪分担荷重が全重の20%以上になるように、適正な質量のバランスウェイトを装着してください。(適正な前輪分担荷重は、トラクタや作業機により異なります。トラクタの取扱説明書や販売店の指示にしたがって、お客様所有のトラクタに適した前輪分担荷重となるようにしてください)
- 両側に溝や傾斜のある農道を通るときは、特に路肩に注意してください。軟弱な路肩、草の茂ったところは通らないでください。
- ほ場への出入りは、必ずあぜと直角に行ってください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

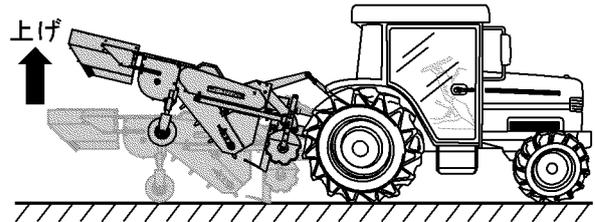
トラクタで公道を走行するときは、必ず作業機を取外してください。

【守らないと】道路運送車両法違反となるだけでなく、事故を引き起こすおそれがあります。

8.1 移動のしかた

1

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を上げて、作業機を最上げ位置にします。
(「6.3 最上げ位置の調節」(26 ページ)を参照してください)

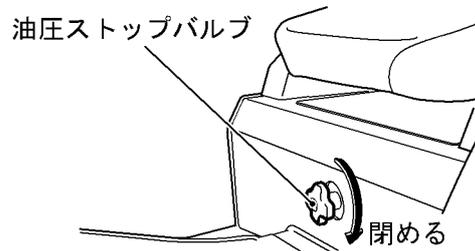


2

油圧ストップバルブを完全に閉めます。

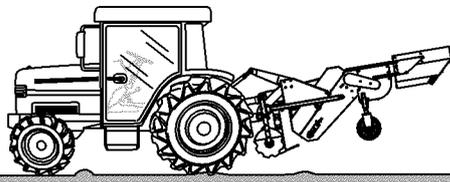
注 記

- ・ 作業機が下がらないようにしてください。

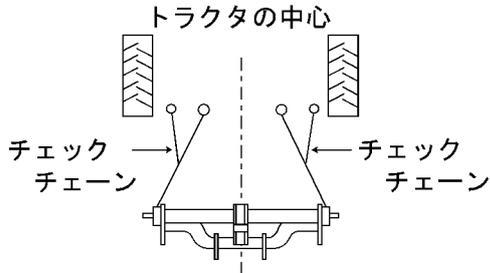


3

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。



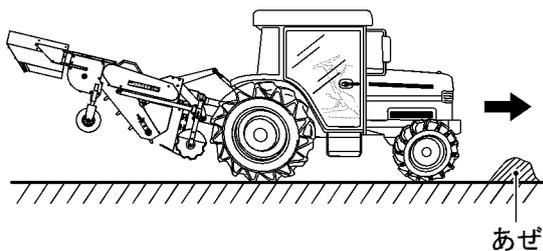
- 4** 作業機が左右に振れないように、チェックチェーンを張り、ロックナットを締めます。



- 5** トラクタのエンジンをかけ、トラクタをゆっくりと移動させます。

◆ほ場への出入り

ほ場への出入りはあぜと直角に、ゆっくり前進で行います。



注 記

- ・ 勾配がきつい場合は、後進で上り、前進で下りてください。
- ・ 作業機の地上高が不足する場合は、トップリンクを縮め、地上高を確保してください。作業を行うときは、調整をやり直してください。

8.2 作業のしかた

⚠ 警告

- 急発進、急加速、高速走行、急制動、急旋回はしないでください。
- トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。
- 作業機の下にもぐったり、足を入れしないでください。
- 作業中は作物が後方に飛び出す場合があります。絶対に人をトラクタや作業機に近づけないでください。
- 作業機を調整するときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
- 作業は平坦な場所で行ってください。傾斜地での作業は、転倒のおそれがあり大変危険です。
- 固いほ場や、石の多いところでは、作業機をゆっくり下ろしてください。
- 作業機は、絶対に素手で触れたり、足で触らないでください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

作業機やトラクタに巻き付いた草などを取除くときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

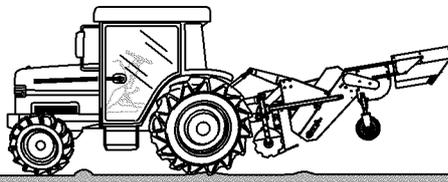
回転部が止まっていることを確認してから、巻き付きを外してください。

【守らないと】作業機やトラクタに巻き込まれて、死亡事故や重傷を負うおそれがあります。

⚠ 注意

使用中、異常が発生したら、すぐにエンジンを停止し、点検を行ってください。

【守らないと】傷害事故や他の部分へ損傷がひろがるおそれがあります。



⚠ 注意

あぜに作業機をぶつけないように、低速で余裕をもって運転してください。

【守らないと】 傷害事故や作業機の損傷につながるおそれがあります。

作業中や作業後に、草やゴミを路上に落とさないでください。

【守らないと】 道路交通法違反になるだけでなく、事故を引き起こすおそれがあります。

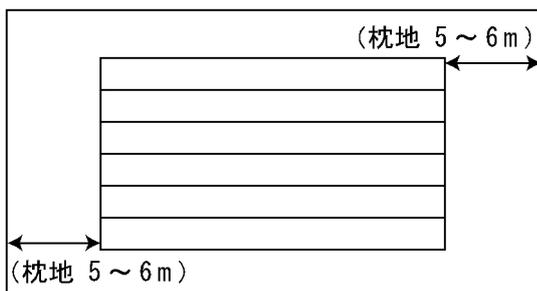
8.2.1 掘取り方法

トラクタで畝をまたぎ、畝の作物を作業機が土を振るいながら掘り出します。

次の方法は、一般的に行われている掘取機を使用した掘取り方法です。ほ場条件に合った方法で使用してください。

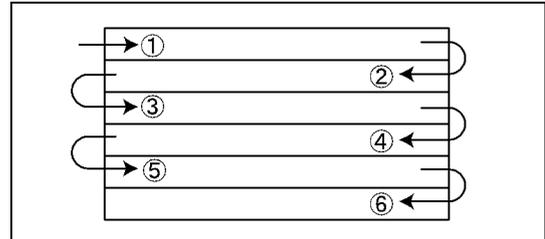
1

あらかじめトラクタの旋回部分 (5 ~ 6 m) を手作業で掘取ります。



2

①から作業をはじめ、隣接を往復で作業します。(②~⑥)



注 記

- ・ 作物の位置をよく確かめてから作業に入ります。2 ~ 3 m 掘取ったところで耕深を確認し、ブレード枠が作物に当たる場合は調整します。(「8.3 上手な作業のしかた」(30 ~ 31 ページ) を参照してください)
- ・ 1 行程を終えて旋回する場合は、作業機を持ち上げてから旋回します。

8.3 上手な作業のしかた

8.3.1 作業速度

標準作業速度は、1.2 ~ 1.7 km/h です。ほ場の条件に合わせてください。

8.3.2 PTO 回転数

トラクタの PTO 回転数は、エンジン回転数が 1400 ~ 2000 rpm の間で、およそ 300 ~ 420 rpm となるように調整してください。

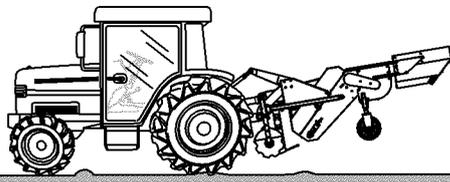
注 記

- ・ 最適な回転数は、ほ場条件により異なります。

8.3.3 逆転 PTO について

重要

- ・ 逆転 PTO は使用しないでください。作業機の損傷につながるおそれがあります。



8.3.4 掘取り深さの調整

トップリンクの長さを調整して深さの調整をします。トップリンクを伸ばすと掘取り深さは浅くなり、トップリンクを縮めると掘取り深さは深くなります。

注 記

- ・ ブレード枠とコンベア爪だけが土の中に入るようにトップリンクを調整します。

⚠ 注意

トップリンクの調整は必ず作業機を下げ、トラクタのエンジンを停止してから行ってください。

【守らないと】トップリンクが抜けて落下し、傷害事故や作業機の損傷につながるおそれがあります。

8.3.5 旋回のしかた

1

トラクタの走行を止め、作業機を持ち上げてからコンベアだけを回し、作物と土を落とします。

2

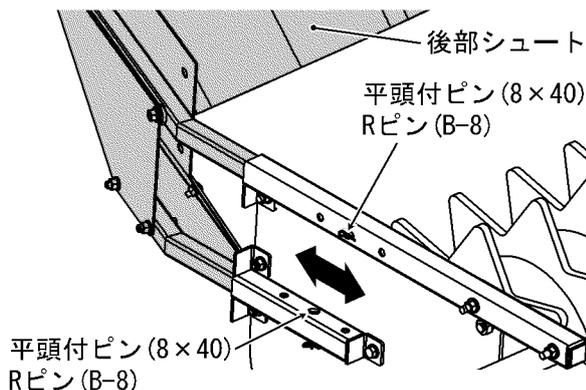
PTO 回転を止め、コンベアを停止してから旋回します。

注 記

- ・ 必ず PTO 回転を止めてから旋回してください。

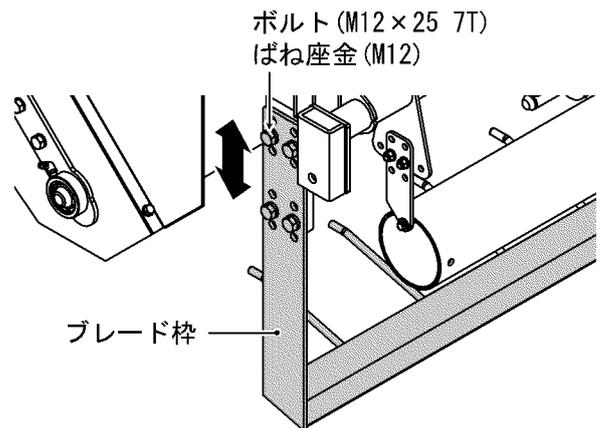
8.3.6 後部シュートの調整

後部シュートは平頭付ピン・Rピンを取外し、取付位置を変更することにより、前後に3段階の調整が可能です。作物の品種・飛び方・反転状態により調整してください。



8.3.7 ブレード枠の調整

ブレード枠はボルト・ばね座金を取外し、取付位置を変更することにより、上下に3段階の調整が可能です。作物の掘取状態により調整してください。

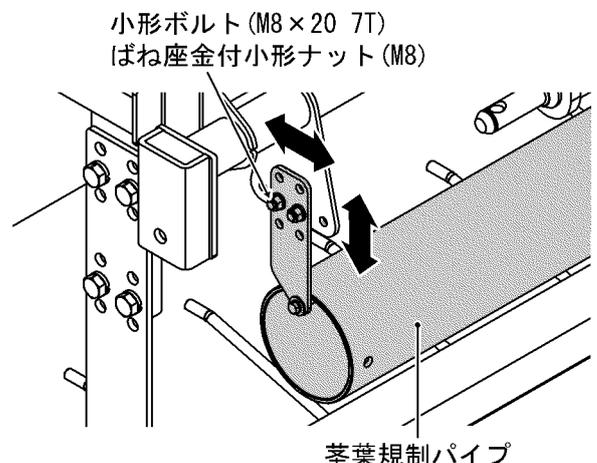


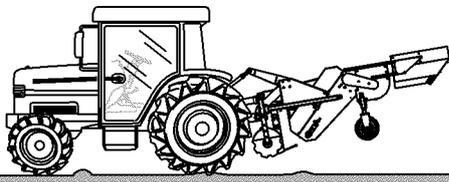
8.3.8 茎葉規制パイプの調整

茎葉規制パイプは小形ボルト・ばね座金付小形ナットを取外し、取付位置を変更することにより、前後・上下にそれぞれ3段階の調整が可能です。作物の品種・茎葉の倒れ状態により調整してください。

注 記

- ・ 茎葉規制パイプで茎葉を前方に押し倒すことで、子実部をコンベア爪で引っ掛けやすくします。





9 取外しについて

⚠ 危険

取外したトラクタのPTO軸カバーを元どおりに取付けてください。

【守らないと】巻き込まれて死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- トラクタの周りや作業機との間に人が入らないようにしてください。
- 作業機の下にもぐったり、足を入れしないでください。
- 平らで固い場所を選び、いつでも危険をさけられる態勢で行ってください。
- 作業機を取外すときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

トラクタの取扱説明書をよく読んでください。

【守らないと】取外しができなかったり、傷害事故、または作業機やトラクタの破損につながるおそれがあります。

重要

- ・ ジョイントを取外したら、必ず作業機の入力軸に入力軸キャップを取付けてください。作業機の損傷につながるおそれがあります。

1

トラクタのエンジンをかけます。

2

トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を操作して、ジョイントを取外しやすい位置（角度）に、作業機を調整します。

3

トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

4

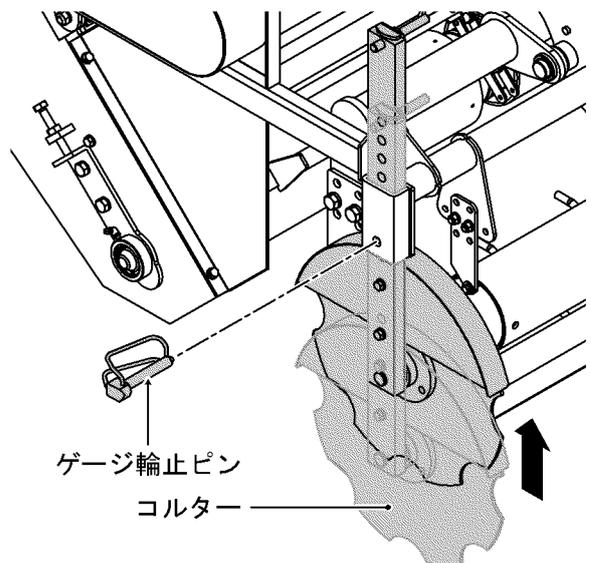
ジョイントをトラクタのPTO軸から外し、次に作業機の入力軸から外します。

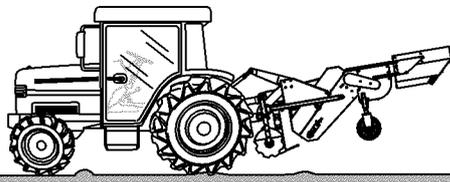
重要

- ・ トラクタから作業機を取外す前に、必ずジョイントを取外してください。トラクタ・作業機・ジョイントを損傷する原因になります。

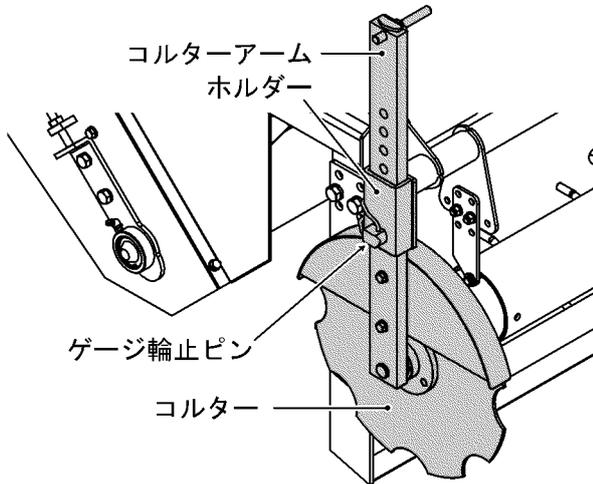
5

ゲージ輪止ピンを抜いてコルターを持ち上げます。



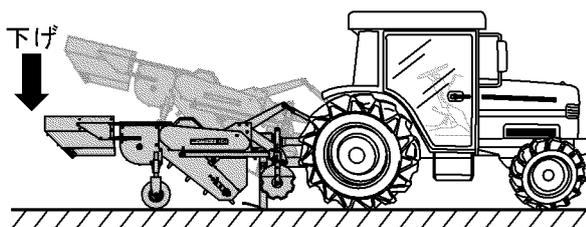


6 コルターアームの一番下の穴にゲージ輪止ピンを挿して固定します。



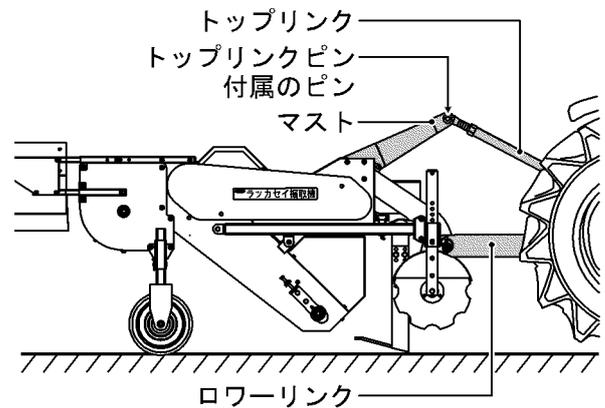
7 トラクタのエンジンをかけます。

8 トラクタの作業機昇降レバー（油圧レバー）を下げて、作業機をゆっくり下げます。



9 トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止します。また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯します。

10 付属のピンを外してトップリングピンを抜き、トラクタのトップリングを作業機のマストから取外します。



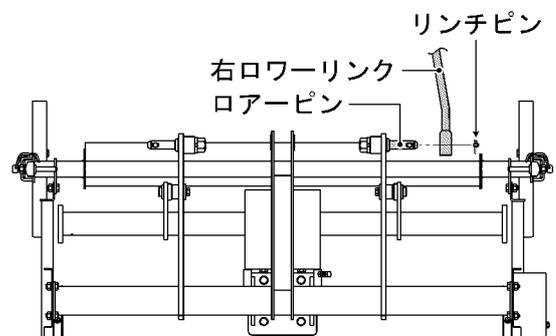
注 記

- ・ 外れないときは、トップリングの長さを調節してください。

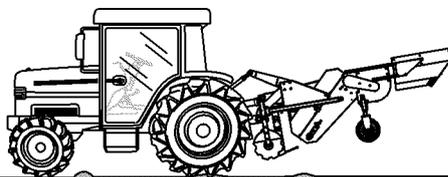
11 リンチピンを抜き、トラクタの右ローリングを作業機の右ローピンから外します。

注 記

- ・ 高さが合わないときは、リフトロッドの長さを調節してください。

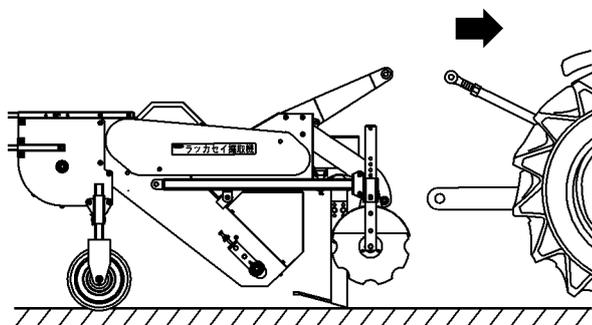


12 同様にリンチピンを抜き、トラクタの左ローリングを作業機の左ローピンから取外します。



13

トラクタをゆっくり前進させます。



注 記

- 作業機が外れない場合は、トラクタと作業機の左右の傾斜が合っていないか、トラクタがまっすぐ前進していないかのどちらかです。確認してやり直してください。

10 保守・点検

長くお使いいただくためには、日常の保守管理が大切です。

お客様でできない作業項目は、お買い上げいただいた購入先にご相談ください。

⚠ 警告

- 交通の邪魔にならない場所で行ってください。
- 作業機が動いたり、倒れたりしない平らで固い場所で行ってください。
- 作業機をトラクタに取付けている場合は、トラクタの車輪には車止めをしてください。
- トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。
また、エンジンを始動できないようにキーを抜き、作業者が携帯してください。
- 作業機が下がるのを防止するため、トラクタの油圧ストップバルブを完全に閉めてロックし、さらに作業機の下へ台を入れてください。
- 変形、破損等の異常を見つけたら、速やかに修理をしてください。

【守らないと】死亡事故や傷害事故につながるおそれがあります。

保守・点検・調整で取外したカバー類は、必ず元の位置に取付けてください。

【守らないと】機械に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

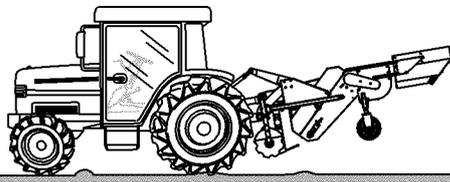
⚠ 注意

点検・整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合ったものを正しく使用してください。

【守らないと】整備不良で事故を引き起こすおそれがあります。

厚手の手袋を着用し、手を保護してください。

【守らないと】傷害事故につながるおそれがあります。



環境

- ・ 消耗品などを捨てる時は、お買い上げいただいた購入先にご相談ください。

むやみに捨てると環境汚染になります。

10.1 ボルト・ナットのゆるみ点検

使用時ごとに各部のボルト・ナットを増締めしてください。

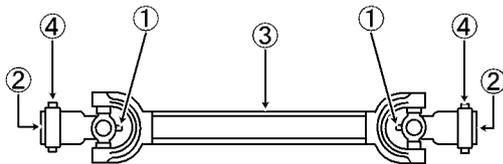
新品の場合は、使用開始から2時間後に必ず増締めをしてください。

10.2 ジョイントの給油

ジョイントの給油は、下表の通り実施してください。

番号	給油箇所	給油時期
①	グリースニップル	使用時ごとにグリースを注入する (2箇所)
②	ジョイントスプライン部	使用時ごとにグリースを塗る
③	シャフト	シーズン後にグリースを塗る
④	ロックピン	シーズン後に潤滑油を塗る

◆普通ジョイント



注 記

- ・ ジョイントカバーにも、グリースニップルが左右1箇所ずつあります。使用時ごとにグリースを注入してください。

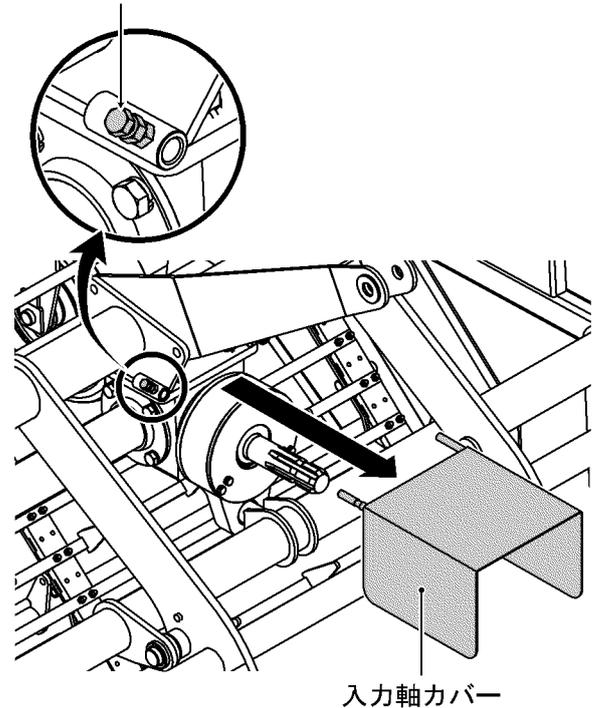
10.3 グリースの補充

10.3.1 連結ハウジング

1

作業機の小形ボルト (M8×25 7T)・小形ナット (M8) をゆるめて、入力軸カバーを取外します。

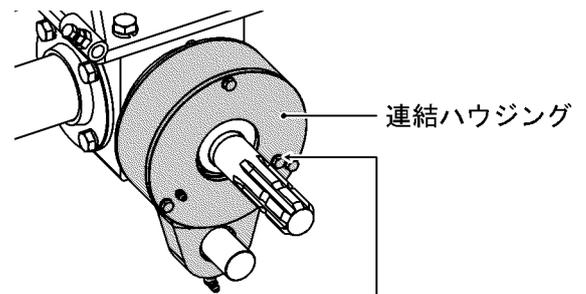
小形ボルト (M8×25 7T)
小形ナット (M8)



入力軸カバー

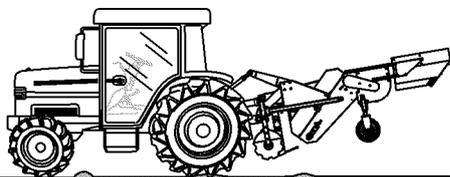
2

ばね座金付ボルト (M6×12 7T) を取外します。



連結ハウジング

ばね座金付ボルト (M6×12 7T)

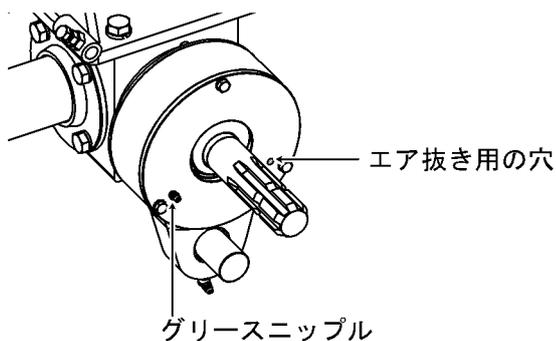


3

グリースニップルにグリースを注入します。

注 記

- ・ エア抜き用の穴からグリースが出るまで注入してください。

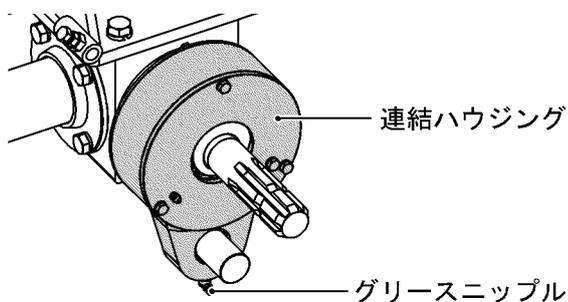


4

手順 ➡ で取外したばね座金付ボルト (M6 × 12 7T) を元の位置に取付けます。

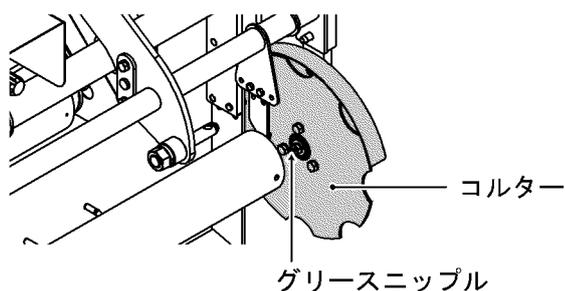
5

連結ハウジング下側のグリースニップルにグリースを適量注入します。



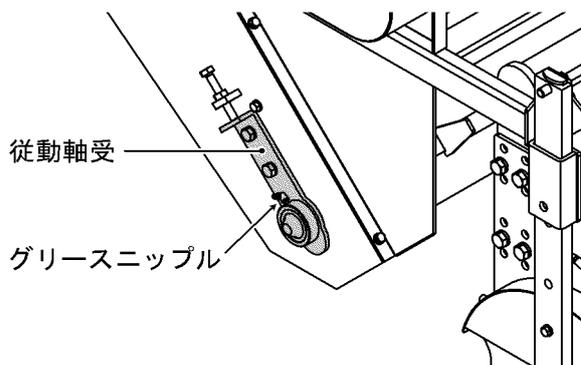
10.3.2 コルター

コルターのグリースニップルにグリースを適量注入します。



10.3.3 従動軸受

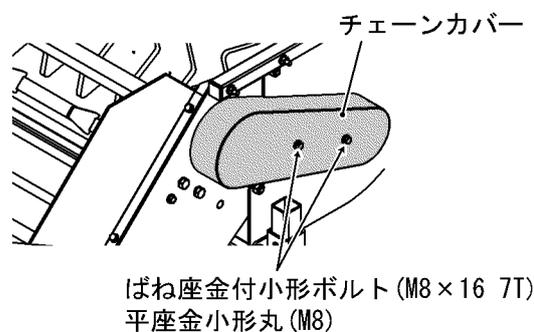
グリースニップルにグリースを注入します。



10.3.4 反転ゴムディスク 駆動チェーン

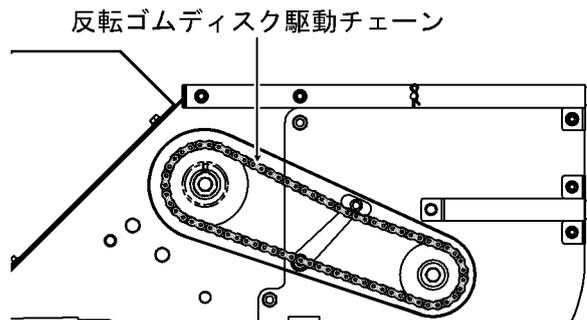
1

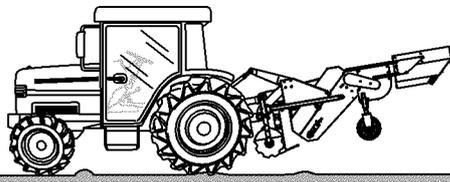
チェーンカバーのばね座金付小形ボルト (M8 × 16 7T)・平座金小形丸 (M8) を取外します。



2

チェーンカバーを取外して、反転ゴムディスク駆動チェーンにグリースを適量塗布します。





10.4 Vベルトの調整

⚠ 危険

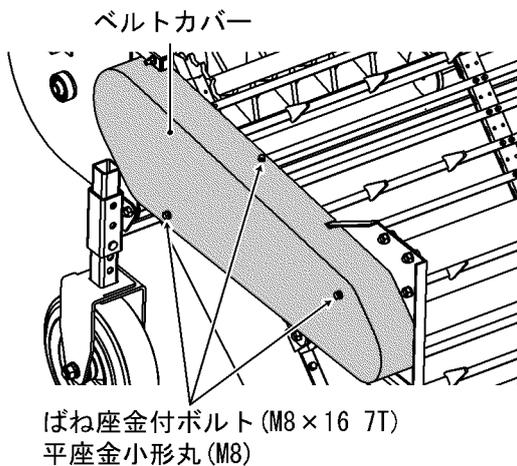
点検・整備のときに取外したカバーは必ず元どおりに取付けてください。

【守らないと】巻き込まれて傷害事故の原因になります。

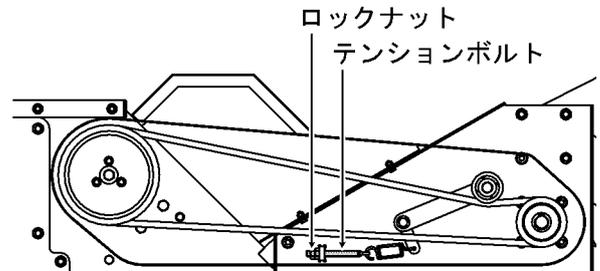
新しいVベルトは初期伸びがあります。
 新しいVベルトを使用後、はじめの3日間の作業終了ごと、および20時間経過後は、必ず、張り調整を行ってください。
 初期伸びの調整を終了した後は、100時間ごとに張り調整を行ってください。

Vベルトサイズ	本数	部品番号
SB-76	2	0740 220076

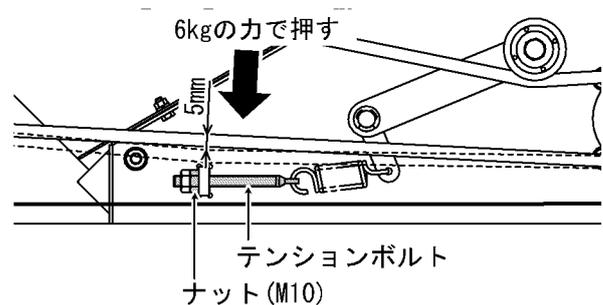
1 ベルトカバーのばね座金付ボルト (M8×16 7T)・平座金小形丸 (M8) を取外し、ベルトカバーを取外します。



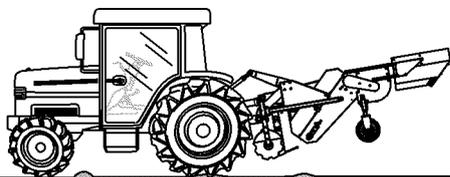
2 テンションボルトのロックナットをゆるめます。



3 テンションボルトのナットを締めて、Vベルト1本の中央を6 kgの力で押したときに5 mmへこむ程度に、Vベルトの張りを調整します。



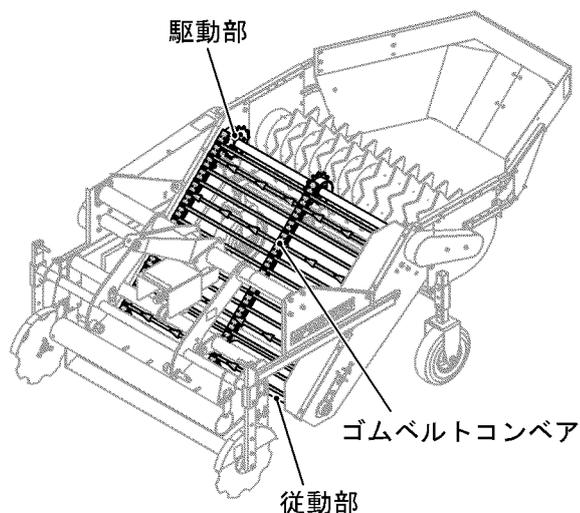
4 ロックナットを締付けて固定します。



10.5 ゴムベルトコンベアの点検

駆動部・従動部の土詰まりがないように、点検を行ってください。

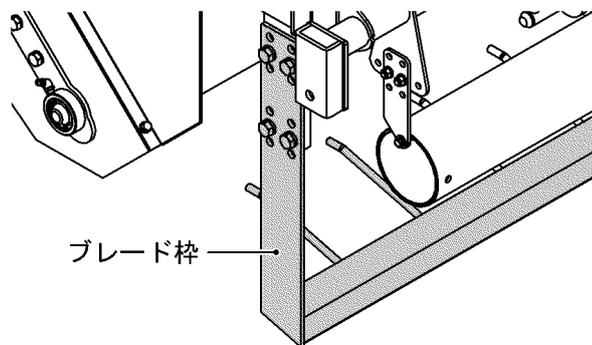
土の付着がある場合は、取除いてください。



10.6 消耗部品の交換

◆ブレード枠

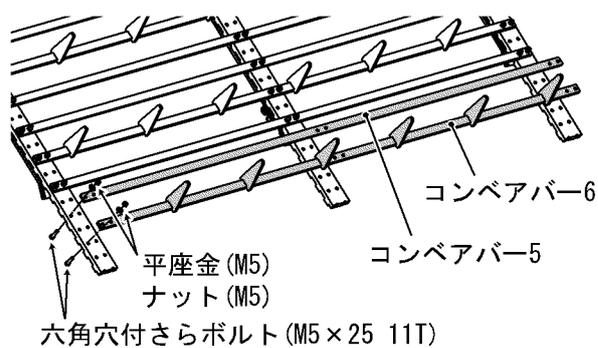
スリ減りを確認したら、新しいものと交換してください。



品名	個数	品番
ブレード枠	1	G158 130000

◆コンベアバー

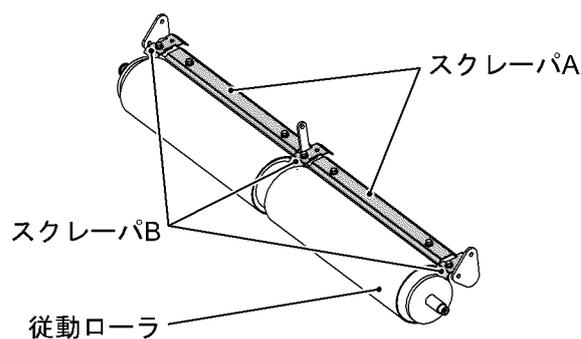
スリ減りを確認したら、新しいものと交換してください。



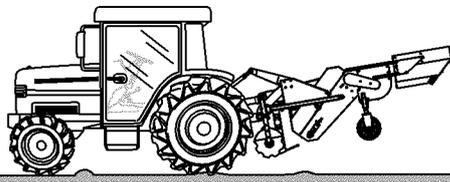
品名	個数	品番
コンベアバー5	22	G158 185000
コンベアバー6	11	G158 186000

◆スクレーパ

従動ローラに土が付着するようになったら、新しいものと交換してください。



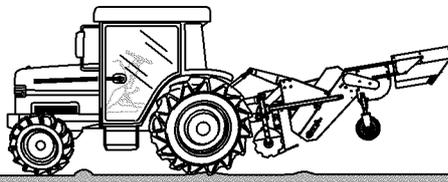
品名	個数	品番
スクレーパA	2	G158 197000
スクレーパB	3	G158 198000



10.7 点検整備チェックリスト

時間	項目
新品使用はじめ	① 組立部品のボルト、ナットのゆるみ確認
新品使用 2 時間	① ボルト・ナットの増締め
新品使用 30 時間	① ジョイントのグリースニップルへグリースを注入する
	② 地面から上げて回転させ、異常・異音のチェック
V ベルト新品使用 3 日間 使用後	V ベルトの張り調整
V ベルト新品使用 20 時間	
V ベルト初期伸び 調整後 100 時間ごと	
使用後	① きれいに洗浄して水分ふき取り
	② ボルト、ナット、ピン類のゆるみ、脱落チェック
	③ 入力軸へグリースを塗る
	④ ジョイント、スプライン部へグリースを塗る
	⑤ ジョイント、ロックピンへ注油
	⑥ 注油箇所、動く部分へ注油
シーズン終了後	① ジョイントのシャフトへグリースを塗る
	② 反転ゴムディスク駆動チェーンのグリース点検
	③ 無塗装部分へのサビ止め
	④ 消耗部品は早めに交換

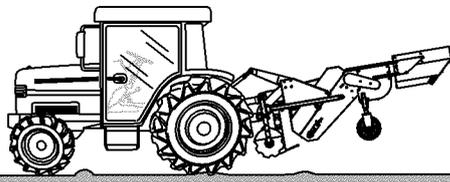
※ 変形、損傷等の異常を見つけたら、速やかに修理してください。
お客様でできない作業項目は、お買い上げいただいた購入先へご相談ください。



10.8 異常と処置一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合は、再使用せずにすぐに次の処置をしてください。

部位	症状	原因	処置
コンベア	コンベアが回らない	Vベルトがすべっている	Vベルトの張り調整
		Vベルトのゆるみ	Vベルト交換
		スプロケットの摩耗	スプロケット交換
		作業深が深すぎる	ゲージ輪、トップリンクで浅くする
		入力軸の破損	入力軸交換
ジョイント	異音の発生	グリース量不足	グリース注入
	ジョイント鳴り	ジョイント折れ角が不適切	前後角度姿勢の調整
		作業機の上げすぎ	リフト量の規制
	たわむ	シャフトのカミ合い幅不足	長いものと交換
スプライン部のガタ	ロックピンとヨークなどの磨耗	すぐに交換	



11 格納について

⚠ 注意

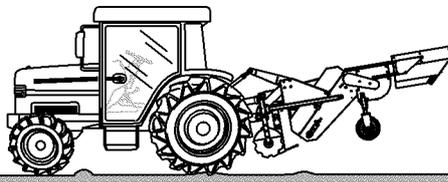
- 雨や風があたりず、平らで固い場所を選んでください。
 - 必ずゲージ輪を所定の位置で固定し、転倒を防止してください。
- 【守らないと】作業機の転倒等により、傷害事故や作業機の損傷につながります。

重要

- ・ ジョイントは、ほこりなどの付かない場所に格納してください。

格納する前に下記の作業を行ってください。

- (1) 作業機はきれいに清掃し、塗装のできない入力軸・ジョイントのスプラインには、必ずサビ止めのためにグリースを塗ってください。
- (2) 格納はできる限り屋内にしてください。



12 保証とサービスについて

12.1 保証について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられるときに必要となるものです。
お読みになった後は大切に保管してください。

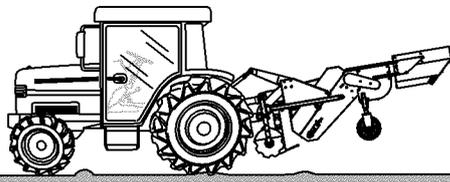
12.2 アフターサービスについて

作業機の調子が悪いときは、この取扱説明書を参照し点検してください。
点検・整備しても不具合がある場合は、お買い上げいただいた購入先までご連絡ください。

● 型式名と製造番号	ネームプレートに記載(14 ページを参照)
● ご使用状況	・ 水田ですか？ 畑ですか？ ・ ほ場の条件は石が多いですか？ 強粘土ですか？ ・ トラクタの速度は？ ・ PTO の回転数は？
● どのくらい使用されましたか？	・ 約□□アール または□□時間
● 不具合が発生したときの状況をなるべく、くわしく教えてください。	

12.3 補修部品と供給年限について

- 補修部品は、純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、作業機の不調や性能に影響する場合があります。
- この作業機の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年です。ただし供給年限内であっても、特殊部品については納期等ご相談させていただく場合があります。



13 用語と解説

アタッチメント

作業機に後付けする製品

オート装置

作業機の均平板の動きをセンサで感知して、トラクタに電気または機械信号で伝え、トラクタの油圧を自動的に作動させ、作業深さを一定に規制する装置

オートヒッチ、カプラ

トラクタに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

クリーブ(速度)

超低速の作業速度

耕深

作物を掘取る深さ

3点リンク

トラクタに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク

ジョイント

トラクタの動力を作業機へ伝達するための軸

ターンバックル

ねじ機構により胴部を回転させて両端の長さを調整できる装置

ダッシング

耕うん爪の回転でトラクタが前に押され飛び出すこと

チェックチェーン

トラクタに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェーン

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

メカニカルロック

機械式に固定する

揚力

トラクタが作業機を上昇させるための力

リフトロッド

トラクタが作業機を上げるためロワーリンクと連結しているアーム

リリーフ状態(音)

油圧シリンダが最縮および最長時、これ以上伸び縮みできないときに音が変わったとき

リリーフ弁

油圧装置に設定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁

ロワーリンク

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで左右1本ずつある

<http://www.niplo.co.jp>

Niplo 松山株式会社

- 本社 〒386-0497
長野県上田市塩川155
Tel.(0268)42-7500
Fax.(0268)42-7556
- 物流センター 〒386-0497
長野県上田市塩川2949
Tel.(0268)36-4111
Fax.(0268)36-3335
- 北海道営業所 〒068-0111
北海道岩見沢市栗沢町由良194-5
Tel.(0126)45-4000
Fax.(0126)45-4516
- 旭川出張所 〒079-8451
北海道旭川市永山北1条8丁目32
Tel.(0166)46-2505
Fax.(0166)46-2501
- 帯広出張所 〒082-0004
北海道河西郡芽室町東芽室北1線18番10
Tel.(0155)62-5370
Fax.(0155)62-5373
- 東北営業所 〒989-6228
宮城県大崎市古川清水三丁目石田24番11
Tel.(0229)26-5651
Fax.(0229)26-5655
- 関東営業所 〒329-4411
栃木県栃木市大平町横堀みずほ5-3
Tel.(0282)45-1226
Fax.(0282)44-0050
- 長野営業所 〒386-0497
長野県上田市塩川2949
Tel.(0268)35-0323
Fax.(0268)36-4787
- 岡山営業所 〒708-1104
岡山県津山市綾部1764-2
Tel.(0868)29-1180
Fax.(0868)29-1325
- 九州営業所 〒869-0416
熊本県宇土市松山町1134-10
Tel.(0964)24-5777
Fax.(0964)22-6775
- 南九州出張所 〒885-0074
宮崎県都城市甲斐元町3389-1
Tel.(0986)24-6412
Fax.(0986)25-7044

